

氏 名	レティツィア・グアリーニ（専任講師）
こんな研究 をしています	日本現代文学における家族、とりわけ父親像や父娘関係を研究しています。 また、文学における妊娠・出産・育児、女同士の友愛関係、フェミニズム運動と文学の関係など、さまざまなテーマに焦点を当てながらジェンダーの視点から文学を研究しています。
こんな成果 を挙げています	1. “Voices Against Gender-based Violence in Contemporary Japanese Literature: An Analysis of Two Novels by Kaoruko Himeno and Aoko Matsuda,” <i>Voiced and Voiceless in Asia</i>, Palacký University Olomouc, 2022, pp. 456-486. 2. “Parody and Subversion in Kurahashi Yumiko’s <i>Divine Maiden</i>,” <i>Japanese Studies</i> vol. 42 no. 3, 2022, pp. 339-353. 3. 「娘は父の支配から逃れられるのか？—角田光代の『ゆうべの神様』と『父のボール』に見る父娘関係」『ジェンダー研究』第23号、2021年、55-79頁。 4. “Mothers Who Kill: Motherhood and Loneliness in <i>Mori ni nemuru sakana</i> and <i>Saka no tochū no ie</i> by Kakuta Mitsuyo,” <i>Il Giappone. Studi e Ricerche</i> vol. 1, 2020, pp. 85-110. 5. “A Utopian Trip to the Country of Amanon: An Analysis of the Father/Daughter Relationship in Kurahashi Yumiko’s <i>Amanonkoku ōkanki</i>,” <i>Orientalia Parthenopea</i> vol. 19, 2019, pp. 165-184.
ほかに、こんなジャンル に関心をもっています	文学はもちろん、映画、漫画、アニメ、ドラマ、CMなど、幅広くメディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析することに関心があります。 また、日本、そして世界各国における家族の形の多様化や性役割に関する社会的規範への違和感を語る声にも興味を持って研究しています。
こんな授業 を行なっています	「多文化相関論 IA・B」 ジェンダー理論やクィア理論の視点から文化について考える授業を行います。また、現代社会における〈みる／みられる〉の関係性について考察しながら、文学作品、映像作品、SNSなどにおける視線と権力を分析する授業を行います。
学会や社会 でこんな活動 をしています	ジェンダー・セクシュアリティ研究についてのイベントを企画・運営しています。 今までジェンダーと写真に関するイベント、翻訳に関するイベント、また映画上映会などを開催してきました。 また、イタリア語で日本の文芸作品を紹介して、翻訳しています。
私が思う多 文化的かつ、 インターカ ルチュラル な人物	